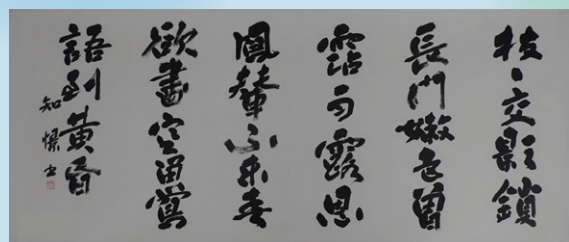


# ふれあい“やましな”2022区民ふれあい文化祭 区民ギャラリー「ふれあいやましな賞」受賞作品

## 一般の部



〈絵画〉  
「鴨川納涼の宴」  
角田 美智子さん



〈書道〉  
「折楊柳」  
近藤 知春さん

〈その他(ちぎり絵)〉  
「黄色い秋」  
松浦 ミサエさん



受賞作品を直接ご覧いただけます

★ふれあいやましな賞・準ふれあいやましな賞  
受賞作品本体の展示期間・場所

| 展示作品                | 期 間                                                  | 場 所                                |
|---------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 一般の部<br>受賞作品        | 2月14日(月)～<br>3月31日(木)<br>午前9時～午後5時<br>※休館日(毎週火曜日)を除く | 東部文化会館<br>ギャラリーエコム                 |
| 中学生以下<br>の部<br>受賞作品 | 2月16日(水)～<br>2月28日(月)                                | イオンタウン<br>山科柳辻 2階                  |
|                     | 3月2日(水)～<br>3月29日(火)                                 | アートロード<br>なぎつじ<br>(地下鉄「柳辻」駅<br>構内) |

全応募作品をご覧になりたい方はこちら

★「区民ギャラリー(オンライン)」  
2月13日(日)から、区ホームページで  
「区民ギャラリー」全応募作品をオンライン  
展示します。ぜひご覧ください。



## アートロードなぎつじ 展示作品募集中

地下鉄「柳辻」駅構内のアトス  
ペース「アートロードなぎつじ」では、  
展示する区民の皆様の芸術作品を  
募集しています。

使用期間・申込受付期間や申込方  
法など、詳細は区ホームページをご覧ください。

問合せ 区総務・防災担当 ☎592-3066



## 保育園・幼稚園の部

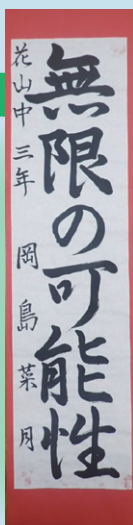


〈絵画〉  
「ルリビタキ」  
寺西幼稚園  
北村 颯士郎さん

## 小学生・中学生の部



〈絵画〉  
「僕の住む街」  
勧修中学校  
清輔 凜太郎さん



〈書道〉  
「無限の可能性」  
花山中学校 岡島 菜月さん

問合せ 区まちづくり推進担当 ☎592-3088

問合せ 区総務・防災担当 ☎592-3066



最後に、大田先生から山科の皆様へメッセージをいただきました。「学生を受け入れて声をかけてくれる、それが学生はめっちゃくちゃ嬉しいんです。そうして学生が元気になることがまちの活気にもつながる。学生を見かけたら、気軽に声をかけ、そして地域のことを教えていただきたい。私は、山科とまちづくり研究会の付き合いは、10年、20年ではなく100年、200年続くのが理想だと思っています。一緒に地域をより楽しくしていきましょう！」  
(京都市まちづくりアドバイザー 谷亮治)

京都橘大学に「まちづくり研究会」という学生サークルがあります。まちづくりに関心がある学生が集まり、日々現場での実践を通じてまちづくりに関する研究を行っています。例えば、清水焼の陶器を使った灯りイベント「陶灯路」や、三条街道わくわくフェスティバルへの協力などです。今年は、絵葉書を使った交流の取組「やましのWA」心のこもった文通プロジェクト」を実施しています。

一体どんなサークルなのか。顧問の京都橘大学経営学部大田雅之助教授に話を伺いました。

「元々、2001年に設立された『臨地まちづくり研究会』という組織がありました。この会では、『教員や外部の専門家が専門家の立場から助言をするのではなく、地域の方々とフラットな関係でそのまちがより楽しくなることを一緒に汗をかきながら考える』ことを大切にしています。2012年に『まちづくり研究会』に名称を変更しましたが、この志を受け継ぎ現在まで続いています。大田先生は、学生であった2010年から10年以上このサークルに関わってこられました。

大田先生によれば、この10年間で、「活動の幅が広がってきた」そうです。「最初は陶灯路だけで手一杯でしたが、清水焼の郷まつり、商店街の取組、区役所との連携へと広がっていききました。地域の方々から、一緒にやりましょう、と声をかけていただくことが年々増えてきています。地域に認知されてきていることが嬉しいですね。」

学生に対しては「地域の中で色んなことを実践して、『自分はこれが大事だ』と思う」と言える学生になってほしい。そのためには、まちづくり活動当日だけでなく、企画や準備から打ち上げまで全てに参加する。それがまちづくり研究会の強みであってほしい」と考えて指導されているそうです。

しかし、新型コロナウイルスの影響で学生も地域に出られない時間が続きました。そんな中でもチャンスを探しています。「学生は危機感を持っています。『このまま大学生活が終わってしまったらどうしよう』と。だから今の学生は目の色が変わります。数少ないチャンスに積極的に地域に関わって、コロナ禍で何ができるか、どうやったらできるのか、考えています。」

最後に、大田先生から山科の皆様へメッセージをいただきました。「学生を受け入れて声をかけてくれる、それが学生はめっちゃくちゃ嬉しいんです。そうして学生が元気になることがまちの活気にもつながる。学生を見かけたら、気軽に声をかけ、そして地域のことを教えていただきたい。私は、山科とまちづくり研究会の付き合いは、10年、20年ではなく100年、200年続くのが理想だと思っています。一緒に地域をより楽しくしていきましょう！」  
(京都市まちづくりアドバイザー 谷亮治)



第75回  
みんなで「山科区基本計画」に取り組もう！  
区民活動きずなリレー

山科というまちを、100年、200年のお付き合いを  
京都橘大学まちづくり研究会